

第2回 天気の変化

まとめてみよう！

解答は別冊3ページ

1 気圧と風 18ページ

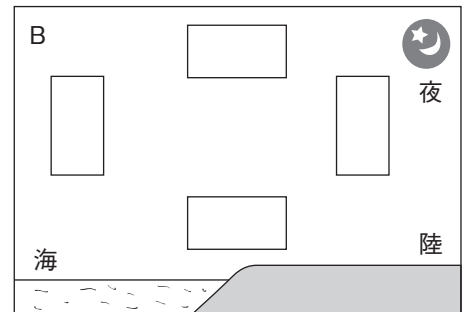
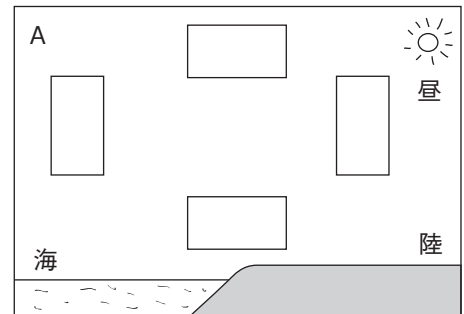
● 空気があたまると 気流ができ、その場所には 気圧が発生する。また、まわりより冷えていると 気流ができ、 気圧が発生する。風は 気圧からふき出し、 気圧の中心に向かってふきこむ。地球の のために、北半球の地上では、 気圧からは まわりに風がふき出し、 気圧には まわりに風がふきこむ。

● 山と谷がある土地では、晴れた日の昼間は が、夜は がふく。

● 海と陸を比べると、土の方があたまり 、冷え 。このため、晴れた日の海岸地方では、昼間は が、夜は がふく。一日のうち2回 の状態になる。

○ (図1)のA・Bに、空気の流れを表すように矢印をかきこみなさい。

- 夏は の、冬は の がふく。
- 地球の によって、日本上空には、いつも強い 風がふいている。この風を という。



(図1)

2 気団と前線 19ページ

● (図2)は日本の四季の気候に大きなえいきょうをあたえる気団を表している。

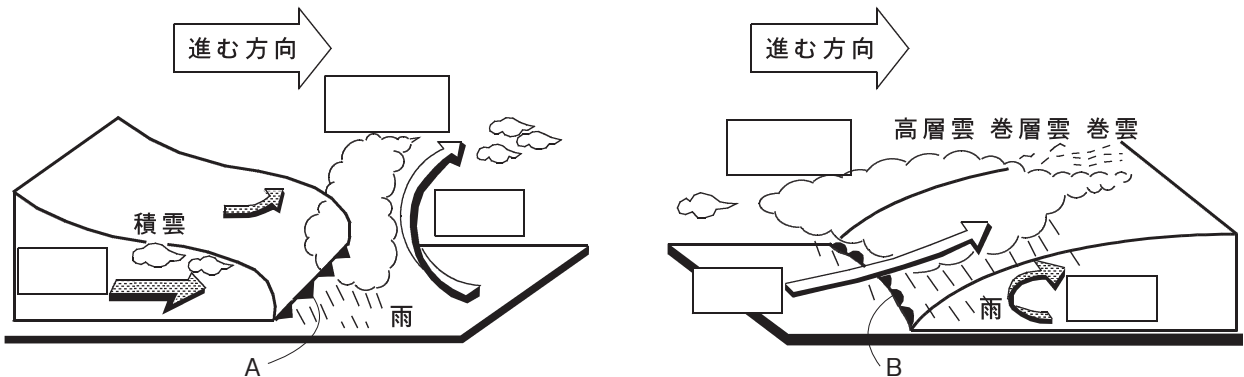
A : 気団 B : 気団
C : 気団 D : 気団



(図2)

● 性質の異なる気団の間の境を といい、地表面と交わってつくる線を という。

- (図3)でAは 前線で、Bは 前線を表している。
- (図3)に雲の名まえと空気の性質(寒気・暖気)を入れなさい。



(図3)

- 冷たい空気とあたたかい空気の勢力が同じくらいの時は、 前線をつくり、
 天気は 日が続く。春から夏にかけてできるこの前線を 前線という。

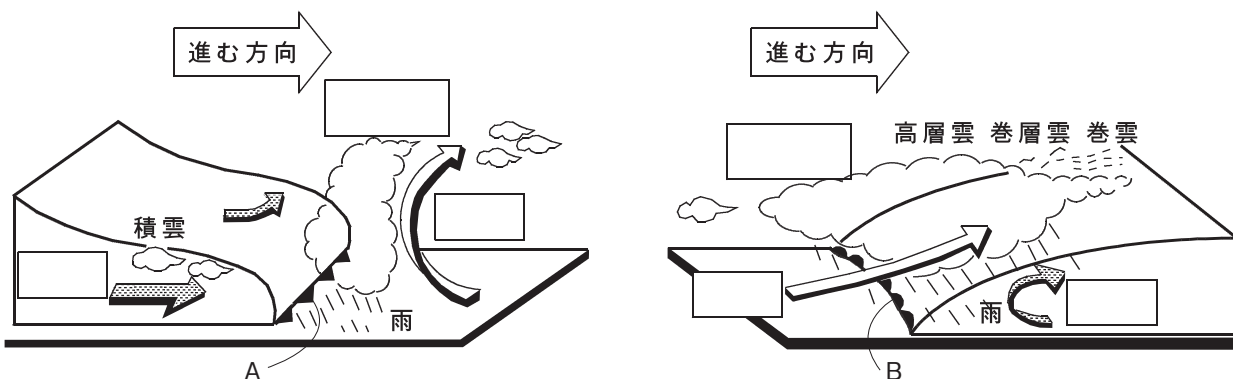
3 天気の変化 21ページ

- 天気の様子をきめる ・ ・ などは、日本付近ではほぼ から へ1日に約500km~1000kmくらい移動する。

4 季節と天気 22ページ

- 春や秋は、高気圧が規則正しくゆっくりと から へ移動する。また、高気圧と低気圧が交互に移動してくるので、天気が に変わる。
- 6~7月ごろ、北の高気圧と南の高気圧が、日本付近でぶつかり 前線をつくり、天気は 。
- 夏の気圧配置は、 で、 の南東の季節風がふき、蒸し暑くなる。
- 冬の気圧配置は、 で、 の季節風がふき、 側では雪や雨、太平洋側ではかんそうした の日が続く。
- が発達し、中心の最大風速が毎秒17.2m以上になったものを台風という。
 また、中心部分を台風の といい、進路の 側は風が強い。
- 日本海上に強い 気圧が発生すると、太平洋上からしめった強風がふきこむ。
 この風が、山脈をこえた日本海側ではかわいた熱風となってふきあれ、 現象が起きることがある。

- (図3)でAは 前線で、Bは 前線を表している。
- (図3)に雲の名まえと空気の性質(寒気・暖気)を入れなさい。



(図3)

- 冷たい空気とあたたかい空気の勢力が同じくらいの時は、 前線をつくり、
 天気は 日が続く。春から夏にかけてできるこの前線を 前線という。

3 天気の変化 21ページ

- 天気の様子をきめる ・ ・ などは、日本付近ではほぼ から へ1日に約500km~1000kmくらい移動する。

4 季節と天気 22ページ

- 春や秋は、高気圧が規則正しくゆっくりと から へ移動する。また、高気圧と低気圧が交互に移動してくるので、天気が に変わる。
- 6~7月ごろ、北の高気圧と南の高気圧が、日本付近でぶつかり 前線をつくり、天気は 。
- 夏の気圧配置は、 で、 の南東の季節風がふき、蒸し暑くなる。
- 冬の気圧配置は、 で、 の季節風がふき、 側では雪や雨、太平洋側ではかんそうした の日が続く。
- が発達し、中心の最大風速が毎秒17.2m以上になったものを台風という。
 また、中心部分を台風の といい、進路の 側は風が強い。
- 日本海上に強い 気圧が発生すると、太平洋上からしめった強風がふきこむ。
 この風が、山脈をこえた日本海側ではかわいた熱風となってふきあれ、 現象が起きることがある。